



のぞみ 希望

学校
ホームページは
こちら



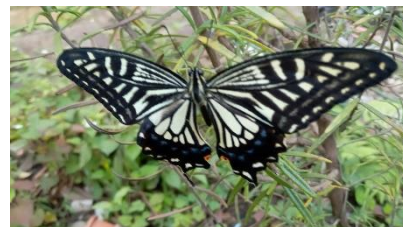
学校ホームページアドレス <https://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/sugita/>

生き物の成長にふれて

副校長 渡邊 智志

我が家にはミカンの木があって、毎年アゲハチョウがやってきます。今年も何匹かの幼虫を発見したので、虫かごを購入して2匹だけ学校に持ってきました。3年生の子どもたちや担任が丁寧に飼育し、4週間ほどで成虫になり大空に飛び去って行きました。初めは黒くてとげとげした幼虫だったのですが、脱皮をして緑色のつるんとした幼虫に変化しました。それからさなぎを経て成虫になる様子を3年生の子どもたちがしっかりと観察したと聞いてうれしい気持ちになりました。

アゲハチョウには不思議な習性があり、広い空間を自由に飛び回るのではなく自分の気に入った空間（蝶道）を飛び続けます。庭仕事をしていると、なるほど同じところを繰り返し飛び回る様子が見られます。成虫の寿命は10日間ほどですので、5月下旬に飛んでいるものと梅雨明けごろに飛んでいるアゲハは親子に当たります。暑い夏を卵の状態で乗り切り、秋にまた成虫になり、寒い冬は卵で越えます。1年間に3～4世代の成長を繰り返すアゲハですが、どれも同じようなところを蝶道に選んで飛んでいるように思えます。



今年の3年生はカイコガの飼育をしています。理科の学習の一環として昆虫の成長を学んでいるのですが、アゲハチョウに加えてモンシロチョウの観察も行っていて、学習内容を発展的にとらえられるように指導しています。カイコガはさなぎになるときに糸を吐き繭を形成するのですが、これも不思議な生態です。その糸が絹として大昔から人間の生活になくはならないものとされてきました。シルクセンターの見学を通して、昆虫の生態だけでなく、社会的な意味合いについてもしっかりと学ぶことができたようです。

3年生は初めての団体行動やJR線の乗車を経験して、また一つ成長しました。年間計画に合わせた実行委員会の活動も進められており、出発式や到着式も児童の運営で進められていました。4月に比べて立派になった感じを受けました。

見学が終わった後もカイコガの飼育はまだ続きます。桑の葉を与えてフンを掃除する、簡単なことのように毎日欠かさず行うことが大切です。生き物の世話を経て小さな発見をすることは、子どもたちの成長にとってとても良い影響を与えてくれるものとして学習に位置づけています。

1年生のアサガオ、2年生の野菜、5年生のイネの栽培などもそのために行っています。本校の技術員も自然を絶やさないように草花の栽培をしています。商店街やマンションに囲まれた小さな自然の中で、たくさんの生命が息づき成長していく様子をこれからも子どもたちとともに見つめていきたいと考えています。